



* M 0 1 0 4 M M 6 0 B C 0 C N A E 2 3 3 7 2 8 9 E E B C 9 7 0 4 4 1 0 4 5 *

04日付 ひろば6版

箱組

校正回数=53

2023年12月28日15時20分38秒

CNAE2337289EEBC970441045

115倍 3× 22行 21

◎サロン

福島県に越してきて1月で丸10年になりました。最初の2年は二本松市、その後福島市に移って8年です。でもいまだに、毎日吾妻連峰を眺めて美しいと思うし、郊外に出るたび田んぼや果樹園の景色に心が癒やされます。「こういうのを『第二のふるさと』』というのかな」。最近そう思ったりもしますが、実はその表現はどうもしっくりきません。なぜかといえば、私にとってそもそも「第一のふるさと」の存在が怪しいからだと思っています。

私の実家は神奈川県沿岸部、京浜工業地帯の真ん中にあります。周囲には山も川も田畑もなく、緑といえなさやかな庭と近所の児童公園くらい。いまは年老いた母の顔を見に月一度帰省していますが、いつ帰っても「殺風景だなあ」と思ってしまいます。小学校から隣の私立校へ通った私は近所に同級生もいません。そんな地域を指して「ふるさと」と表現することには、

民報 サロン

どうも違和感があるのです。実家を出た後は、東京都内で何回か引っ越しました。でも、どこに住んでも地縁というものができたことはなく、私にとってのコミュニティはいつも会社の仕事仲間でした。そのせいか東京という場所も、勝手を知っているという意味で「ホーム」ではあって

第一のふるさと？



中川 雅美

も「ふるさと」と呼ぶ気にはなれませんが。私が2014（平成26）年1月に福島にきたのは、原発事故の影響で当時まだ全町避難中の自治体役場で応援職員として働くためでした。ここでは「ふるさと」や「コミュニティ」という言葉が頻繁に使われていましたが、そ

れらを失った町民の方々の悲しみ、心の傷の深さは、私にとって想像の範囲を超えていました。一度、海外から来た視察グループと一緒に、日中の立ち入りが可能だった避難区域を回ったことがあります。そのとき参加者の一人に「ここに住めなくなったなら、別の場所へ移れば良いだろう」という言葉を残していたからで

あるベテラン通訳の方がどこかで「『ふるさと』の英訳に苦心した」と書いていました。「hometown」はただの「生まれ故郷」。でも、ひらがなの「ふるさと」には、それ以上の意味がある。考えた末に「my beautiful hometown」と訳したそうです。なるほどと思います。「ふるさと」は「美しい」という形容をすでに含意しているということです。

もう一つ、この言葉に含まれると感じるのが「いつかは帰る場所」というニュアンスです。7年前に役場を辞めてフリーランスとなり、東京と福島の間で「帰る」と「戻る」を繰り返している私は、この先どこが住みたいのすみかになるのでしょうか。胸を張って「ここが私のふるさと」と言える人を、ときどきうらやましく思います。

（福島市太田町、ライター・翻訳者）